

WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOICHHAMA

★☆☆☆☆
Win Element Racing
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTECH

JMS

AD アイシン開発

ETAS

YAMAHA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILLION

YAMAHA

TOKOH

WedsSport
Racing Team
with BANDOCH

2009 SUPER GT Rd.3 FUJI400km RACE



- 開催日: 2009年5月3日～4日
- コース: 富士スピードウェイ(全長4.563km)
- 天候: <予選> 晴 <決勝> 晴
- 路面コンディション: <予選>ドライ <決勝>ドライ
- チーム: WedsSportRacingTeam with BANDOCH
- 車名: ウェッズスポーツIS350 <GT300 ゼッケン19>
- ドライバー: 織戸 学 / 片岡 龍也
- 監督: 坂東正敬
- 観客動員数: 予選28,500人 / 決勝50,000人

WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOKOHAMA

★ウエッズ★
Weds Sport Racing
北陸自動車競技クラブ

アルファプロデュース

NUTECH

JIMS

AD アイシン開発

ETAS

ENTERFAME

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

YOKOHAMA

TOKOH

今年は世界不況による経費削減のため、400kmレースとなるゴールデンウィークの富士レース。休日らしい天候の中、レースウィークを迎えた。

5月3日(日)

フリー走行 9:15~10:45(混走)

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温18度 / 路温24度

今回のレースでは2PITが義務となり、燃費の良い車輛の1PIT作戦が使えなくなり、各チームの作戦がレースの鍵を握ることとなりそうだ。

スタートは織戸選手、まずは予選を見据えたタイヤテストを行う。

車輛は今回のレースのため、富士仕様のアップデートを行ってきている。

5LAP目に1分46秒007を記録し、2番手タイムを出す。今回のウェイトは、開幕戦の40kgと第2戦の6kg、性能調整分の20kgと高速サーキットの富士では厳しい状態でのスタートだが、車輛のセットはほぼ決まっている。タイヤとのマッチングも良く、好調な滑り出しとなった。その後、決勝に向けたタイヤテスト、車輛のセットアップを行う。

この時点でのトップタイムは81号車ダイシンアドバンフェラーリ。下馬評どおりの順位となっていた。その後、片岡選手に交代し、セッティングを煮詰めていく、フリー走行終了時にはベストタイム1分45秒348を記録し8番手となった。ウエッズスポーツS350の特性としてコーナーリングマシンのため最高速が伸びず苦しい展開となったが、ドライバーはスーパーラップに残ることを確信しているようだ。



5月3日(日)

予選1回目 13:40~14:05(混走) / 14:05~14:15(GT300)

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温19度 / 路温25度

予選1回目GT500との混走時間が始まる。

スタートは片岡選手。各チーム、セッティングを煮詰めてきているのか全体的なタイムは伸びず4LAP目に1分45秒210を記録し暫定1番手となる。その後織戸選手に代わるが、43号車が44秒台を記録しトップに躍り出る。このあたりで混走時間が終わり、GT300占有時間となる。走行時間は10分間、この時点で5番手となっているが占有時間のほうがタイムを出しやすい為、安心は出来ない。

残り5分を切った所でトップタイムは43号車の43秒台、2番手タイムは81号車で44秒台となっていたが、織戸選手の渾身の走りが予選順位を変えた。

1分44秒607を記録し、3番手タイムをたたき出した。

これでスーパーラップ進出が決まった。

スーパーラップ 15:20~

天気:晴れ / 路面:ドライ 気温19度 / 路温17度

今年から上位8台となったスーパーラップ。

予選3番手だった為に、走降順は6番目となる。

66号車からのアタックで1分44秒552を記録、これが基準タイムとなる。

2番手走行の74号車は1分45秒台となり、3番手走行の11号車が1分43秒932を記録しトップを奪う。その後、7号車、5号車と44秒台でトップの変更はなく、19号車ウェッズスポーツIS350の出走順となった。アタックドライバーは織戸選手、今回のアタックに秘策があるようだった。モニターで織戸選手のアタックを見ていると、コースをはみ出す場面もあったが、出したタイムは1分43秒842と暫定トップに躍り出た。コースをはみ出していたように思えた走行が速度を落とさないう走りとなっていたと後から織戸選手に聞いた。やはり、引き出しの多いドライバーは考えることが凄い。

7番手走行の81号車が43秒代前半のタイムでトップになったが、最後の出走43号車は、脅威の42秒台を記録しポールポジションを獲得した。



WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOKOHAMA

★☆☆☆☆
Win Element Racing
北陸自動車レースグループ

アルファプロデュース

NUTECH

JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

TOYOTA

TOKOH

監督、ドライバーコメント

坂東監督

1回目はソフトタイヤで行きました。スーパーラップはスタートタイヤなので3位には非常に満足しています。ISのスーパーラップ進出はほぼ100%です(笑)

入念にミーティングをして織戸さんに頑張ってもらいました。

今の重量を考えると8位が良いところかなと思っていたので明日は表彰台を狙えるように頑張ります。今日の新しいヨコハマタイヤのパフォーマンスも凄く良かったです。

織戸選手

ウチはスーパーラップに残れるかどうかとところだったんです。予選ではいいセットが出たのと、スリップをうまく使えたんです。スーパーラップではタイヤをうまく使えました。けれど、“まさか”の3番手だったんですよ。いやぁ良かった！今回は2回ピットストップがあるので、チームによって作戦が変わってくるはず。でも、ボクらはつねにイケイケです！なんとかシリーズ上位につけたいので、ビシバシやりますよ

片岡選手

前回の鈴鹿戦から入念にミーティングを重ね今回の富士の持ち込みのセットアップを決めました。織戸さんからの走り出しでマシンの調子が良い方向に向かっていることは確認できました。その後、少しのセットチェンジで予選を行い。

スーパーラップでは織戸さんが想定以上のタイムで見事に3番手を獲得してくれました。



WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOKOHAMA

★スタア★
Win Element Racing
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTEC

JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

TOKOH

TOKOH

5月4日(月)

決勝 14:00~(88LAP)

天気:晴 / 路面:ドライ 気温22度 / 路温41度

午前中のフリー走行で決勝に向けてのいろいろな作戦を試し、決勝に向けての練習をこなした。今回は2PITの義務があるので多様な作戦がある。セカンドロー、3番手スタートの19号車ウエッズスポーツIS350は片岡選手からのスタートとなる。順調なスタートを決め、3番手をキープし片岡選手が走行するが、トップを行く43号車、2番手の81号車はストレートの伸びを活かし3番手19号車ウエッズスポーツIS350との差を広げていく。9LAP目にはトップ43号車との差は9秒以上、2番手81号車にも9秒以上の差がついていた。しかし、4番手走行の7号車は着かず離れずでの攻防戦となり、10LAP目には3番手のポジションを奪われてしまった。19号車ウエッズスポーツIS350はこれで4番手となり、17LAP目には3番手7号車に4秒以上の差がついてしまった。後続の26号車もストレートスピードを活かし、19号車ウエッズスポーツIS350に急接近する。18LAP目には26号車にかわされ5番手になる。この頃から1回目のPIT作業が始まる。22LAP目に26号車がPITインし、19号車ウエッズスポーツIS350は4番手に浮上、29LAP目にマークしていた7号車がPITインし、30LAP目には19号車ウエッズスポーツIS350がPITイン、織戸選手に代わる。しかし、またもやエンジンがかからない状態が出てしまい、ピットでタイムロスをしてしまった。PITアウト後の順位は10番手、この時点では9番手を走る26号車との差は11秒、11番手を走る30号車とは29秒の差があり、単独の走行となった。この間に織戸選手は懸命に追い上げるが、前を行く26号車は重量の軽く、ストレートスピードが速いので、なかなか追いつくことが出来ない。37LAP目には5番手まで復帰するが、前を行く26号車との差は13秒となっていた。

53LAP目、26号車が2回目のPITインとなり、19号車ウエッズスポーツIS350は4番手に浮上する。56LAP目には2番手を行く81号車が2回目のPITイン、これで3番手に浮上、2番手を行く7号車との差は23秒、しかも7号車は今回のレースでタイヤ無交換の作戦に出た。62LAP目に19号車ウエッズスポーツIS350はPITインし、片岡選手に交代する。



しかも、左側のタイヤ2本交換で出る。これでタイム差をなくすことが出来ると思ったが、ストップボードがエアジャッキのバルブに当たりジャッキが降りてしまうミスが発生した。片岡選手は7番手で復帰するも前を行く26号車を懸命に追いかける。



WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOKOHAMA

★☆☆☆☆
Win Element Racing
北陸自動車競技クラブ

アルファプロデュース

NUTEC

JMS

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

YOKOHAMA

TOKOH

WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOKOHAMA

★☆☆☆
Win Element Racing
北陸自動車競技グループ

アルファプロデュース

NUTECH

Jims

AD アイシン開発

ETAS

INTERFAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

YAMAHA

TOKOH

66LAP目には26号車が4番手をいく46号車を攻略しポジションアップ。これで前方の敵は46号車となる。PITアウト後は10秒の差があったが70LAP目には5秒差、74LAP目には2秒差と5番手の46号車を追い詰めていく。78LAP目には46号車のすぐ後ろまで迫り、ファイナルラップで46号車を攻略し、5番手でのフィニッシュとなった。今回のレースを振り返ると、PITでの作業にミスが無く、順調に行っても表彰台は厳しかったレースになった。直線の速いマシン、タイヤの磨耗が少ないマシンが上位を占める結果となった。次戦マレーシアのセパン戦では、この教訓を活かし、表彰台に上がることだろう。



WedsSport

LEXUS

Racing Development
TRD

ADVAN
YOKOHAMA

★☆☆☆☆
Win Element Racing
北陸自動車レースグループ

アルファプロデュース

NUTECH

JIMS

AD アイシン開発

ETAS

INTREXAMA

KBC

705

ENDLESS GruppeM

KTEL REAR WINDOW MONITOR

KYB ÖHLINS

TAKATA ODYSSEY

SARD APP

BRIDE BILION

YOKOHAMA

TOKOH

決勝後のコメント

織戸選手

決勝は5番でした。
最後に片岡が46を抜いてくれたから、ポジションアップ。
4番まではあと1秒、目の前。
ピットで、少しロスタイムが2回出てしまい、ちょっと悔しい結果です。でも良くて4番だったな。
なかなか厳しいです。しかしまだまだポイントは3番。



片岡選手

決勝は燃料の重い時のマシンバランスがあともう一步の状態でしたが、鈴鹿からの進歩は大きく感じられる内容のある状態でした。少しもったいない場面もありましたが週末の状態では90点のレース運びはできたと思います。
しかし目標は優勝を常に考えていますのでまだまだ多くを頑張らなくては駄目ですね。
これからセパンに向けて出来る限りの準備をしていきたいと思っています。



坂東監督

僕の作戦ミスとチームのミスで5位でした。
結果、5位は本来ならば80点でしょう。しかし、シリーズを考えると結果は50点ですね。
RX-7とガライヤの前を行きたい所でしたまだ3戦でシリーズ3位、次のセパンか菅生で表彰台に立ちたいです。次にも秘策を投入する予定です。



アルファプロデュース

予選結果

1	43	ARTA Garaiya	1' 42.936
2	81	ダイシン アドバン Ferrari	1' 43.253
3	19	ウェッズスポーツIS350	1' 43.842
4	11	JIMGAINER ADVAN F430	1' 43.932

決勝結果

1	43	ARTA Garaiya	2:27' 26.065
2	81	ダイシン アドバン Ferrari	0' 12.008
3	7	M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC 7	1LAP
5	19	ウェッズスポーツIS350	1LAP

チームランキング

1	43	AUTOBACS RACING TEAM AGURI	50
2	7	M7 RE雨宮レーシング	46
3	19	RACING PROJECT BANDO H	38
4	46	TEAM NISHIZAWA MOLA	29

ドライバーランキング

1	43	新田 守男 / 高木 真一	41
2	7	谷口 信輝 / 折目 遼	37
3	19	織戸 学 / 片岡 龍也	29
4	33	木下 みつひろ / 影山 正美	20